

穂肥診断で適期に適量穂肥を

1 生育概況(コシヒカリ 7/10現在)

現在の生育(指標値比)

平坦地	草丈:長い (115%)	茎数:多い (119%)	葉数:やや早い (+0.6)	葉色:濃い (SPAD値 +2.7)
中山間地	草丈:長い (111%)	茎数:並 (98%)	葉数:早い (+0.7)	葉色:並 (SPAD値 +0.3)

○草丈は、前回調査よりさらに伸長し、茎数は多めで、葉色の濃いほ場が多くなっています。

○「コシヒカリ」は、穂肥診断(草丈と葉色の確認)を行う時期となっています。

2 調査結果 (普及センター、JA調査ほ)

(1)コシヒカリ

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	今熊 (浦川原)	14	5/12	76	104%	117%	594	株当 28.2	101%	129%	11.7	+0.5	+0.7	39.1	+1.5	+3.1	7/10幼穂形成期
	飯室 (浦川原)	13	5/16	74	97%	114%	498	株当 31.5	97%	108%	11.5	+0.4	+0.5	38.2	-4.0	+2.2	7/12頃幼穂形成期 見込み
	平均			75	100%	115%	546	29.9	99%	119%	11.6	+0.4	+0.6	38.7	-1.2	+2.7	
	宮口 (牧)	71	5/21	60	92%	92%	470	株当 23.6	123%	102%	11.0	0.0	0.0	35.5	-2.8	-0.5	7/10幼穂形成期 全量基肥肥料
中山間地	和田 (安塚)	133	5/18	75	89%	115%	478	株当 24.4	97%	104%	11.7	-0.3	+0.7	40.8	-1.3	+4.8	7/9幼穂形成期
	大島 (大島)	152	5/16	74	97%	114%	458	株当 23.5	90%	100%	11.8	+0.3	+0.8	32.5	-3.0	-3.5	7/14頃幼穂形成期 見込み
	菖蒲 (大島)	337	5/26	69	90%	106%	428	株当 20.7	76%	93%	11.4	+0.1	+0.4	34.8	-2.7	-1.2	－
	高尾 (牧)	340	5/19	68	－	105%	446	株当 25.5	－	97%	11.7	－	+0.7	37.1	－	+1.1	7/11頃幼穂形成期 見込み
	平均			72	91%	111%	453	23.5	87%	98%	11.7	+0.1	+0.7	36.3	-2.1	+0.3	

(2)こしいぶき

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
平坦地	長走 (浦川原)	23	5/17	63	91%	97%	344	株当 18.4	90%	78%	11.6	+0.5	+0.1	37.5	-4.7	-0.5	7/4幼穂形成期

(3)つきあかり

	場所	標高 (m)	田植 (月日)	草丈 (cm)			茎数 (本／㎡)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)			備考	
				本年	前年比	指標比	本年	前年比	指標比	本年	前年差	指標差	本年	前年差	指標差		
中山間地	高尾 (牧)	285	5/21	79	95%	122%	335	株当 13.5	96%	99%	11.2	-0.7	+0.4	43.5	-1.3	+3.5	7/5幼穂形成期 全量基肥肥料

3 今後の管理のポイント

○「コシヒカリ」の出穂期は平年並の見込みです(平坦地:8/2頃、中山間地:8/7頃、管内平均:8/3頃)。

○「コシヒカリ」の出穂予想と穂肥のめやす(稚苗5/10～15頃、中苗5/15～20日頃の移植の場合)

平坦地 : 8月2日頃出穂、幼穂形成期は7/10頃、1回目の穂肥時期は7/15～18

中山間地 : 8月7日頃出穂、幼穂形成期は7/15頃、1回目の穂肥時期は7/20～23

○**1回目の穂肥は、遅め控えめを基本とし、必ずほ場ごとに幼穂形成期の草丈と葉色を確認して施用時期と量を決めましょう。**

○**平坦地や田植えが早いほ場では穂肥診断が遅れないように注意**しましょう。

○穂肥施用時は浅めに湛水し、その後は飽水管理を継続しましょう。

○いもち病感染好適条件が出現しています。新之助等のいもち病に弱い品種や、生育量が大きく葉色が濃いほ場及び、過去に発生が見られたほ場では、こまめに確認を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。

○病害虫発生予察調査では、斑点米カメムシ類が多く確認されています。イネ科雑草が結実しない3週間程度の間隔で農道・畦畔の草刈りを行い、本田防除も徹底しましょう。

表 コシヒカリの幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による1回目の穂肥診断

草丈	葉色	並	濃い
		SPAD値 34～32	SPAD値 35以上
75cm以内		時期・量とも基準どおり施用	時期を遅らせて施用
75～80cm以内		施用量を減らす	時期を遅らせ、施用量を減らす
80cm以上		施用しない	施用しない